実践記録　小学５年　総合的な学習の時間

１　単元　　インターネットの「いいところ」と「困るところ」

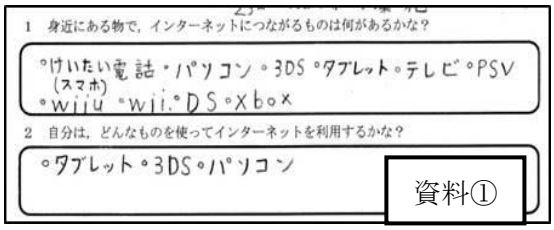
２　目標

インターネットの「いいところ」と「困るところ」を対比させ，自分の生活に役立てる知識を身に付けることができる。

３　情報の交流を行う場面と期待される効果

インターネットの「よいところ」と「困るところ」という視点で，個人の考えをグループの中で意見を出し合うことで，情報の交流を行う。これにより，インターネットの光の部分と影の部分の双方を理解することができる。また，その情報の交流から得た新たな知識を自分の生活に役立つ物として理解することができる。

４　実践の様子

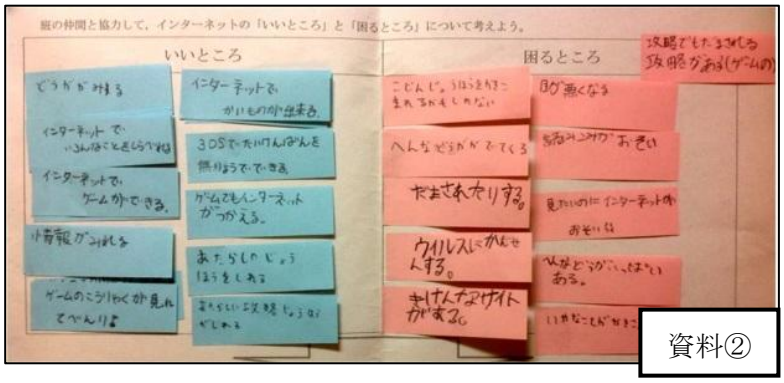


資料①

本学級の児童は，様々なメディアを使ってインターネットを利用している実態がある。そこで，インターネットを使っていて，「いいところ」と「困ること」にはどんなことがあるのかを考えることにした。

児童の多くがゲーム機，携帯電話，タブレット，コンピュータ，テレビといった物を使用してインターネットを行っていることを確認した。自分たちが手軽にインターネットを使用していることが当たり前になっている実態が分かった。【資料①】

次にインターネットのいいところと困るところについて自分の考えをワークシートに書いた。その後，グループで話し合い活動を行った。話し合い活動では，青と赤の２色の付箋を利用した。「青は青信号でよいところ」「赤は赤信号で困るところ」と児童たちにとって身近なものに例えてルールを決めて分かりやすくした。色分けしたことで混乱することなく自分の考えを付箋に記入していった。



資料②

そして，グループ用のワークシートに貼り付ける作業を行った。相手と同じ意見の場合は，肯定的に互いを認め合いながら付箋を貼り付けることをルールとした。ルールに従い，活動は行われた。【資料②】

５　成果と課題

○　生活の中で使っているインターネットの特色を捉え，情報の交流を行ったことで，インターネットの光の部分と影の部分の双方を理解することができた。

○　自分の意見を肯定的に捉えてもらえるために，積極的に活動に取り組む様子が見られた。

●　インターネットに必要なルールが「なぜ必要なのか？」というところまで考えを深めるまで至らなかった。